

【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

看護学部 看護学科

カリキュラムマップ ▶

カリキュラム表 ▶

科目概要 ▶

▼ 1. 看護学科教育理念 ▼ 2. 各回生の到達目標 ▼ 3. カリキュラムのねらい ▼ 4. 学修成果の評価

▼ 5. カリキュラムの概要 ▼ 6. 履修条件 ▼ 7. 取得できる免許・資格

1. 看護学科教育理念

(1) 教育研究上の目的

看護学部は、生命に対して深い畏敬の念を抱き、看護の実践と創造を通して社会に貢献できる人材を養成する。看護学部看護学科は、豊かな人間性とコミュニケーション能力を備え、俯瞰力と深い倫理観をもった看護専門職者を養成する。

(2) ディプロマポリシー（学位授与方針）

看護学部看護学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、めまぐるしく変化する社会にあって、どのような環境や状況においても看護専門職としての責務を自覚し、「人によりそう看護」を創造し実践できる人材を養成する。そのために看護学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（看護学）の学位を授与する。

- ① 創造的な発想、多角的な視点を持ち、新しい看護を生み出し社会に発信できる力を身につけている。
- ② あらゆる環境において、歴史的・社会的・文化的に多様な背景を持った、生活を営む人々について考えられる力を身につけている。
- ③ 自己理解と他者理解を深め、人々との良好な関係とネットワークを築くことができる力を身につけている。
- ④ 自然との関係の中で人ととらえ、生命機能のメカニズムや生命の尊さを考えることができる力を身につけている。

(3) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

看護学部看護学科は、ディプロマポリシーとして掲げる4つの能力を身につけるため、資格取得とリベラルアーツを有機的に関連させ、看護学の視点に立った保健師・助産師・看護師の3職種の基盤となる教育を展開する。そのカリキュラムは、「人によりそう看護」を基盤に、それぞれに教育目標を明示した、講義・演習・実習を組み合わせた9つの授業科目群で編成する。

- ① 看護学を学ぶための主体的な姿勢や基礎的な能力を養うために、「キャリア開発演習」「英語」「論理的思考」「教養入門」および教養教育科目群を配置する。また、これらの科目群は、教学理念を具現化するための教育目標を達成する中心的な科目群ともなっている。
- ② 様々な環境で多様な生活を営む人々を理解するための基礎的な能力を養うために、「災害看護学」「国際看護学」「プライマリヘルスケア」「地域課題研究」を配置する。

- ③ ライフサイクルの視点を通して、人々を理解し、他者との関係性を築く能力を養うために、「家族看護学」「対人ネットワーク論」「ライフサイクル論」および実習を通して学ぶ「生涯健やか看護学実習 II-1（デイケア）」を配置する。
-
- ④ ライフサイクルを基盤に生命科学の視点から人々を理解する能力を養うために、「フィジカルアセスメント」「フィジカルアセスメント演習」「ライフサイクル疾病論」を配置する。
-
- ⑤ 看護を創造し、社会に発信するための基礎的な能力を養うために、「看護創造論」「キャリア開発演習 V」「情報科学」「統計学基礎論」を配置する。
-
- ⑥ 多様な背景や価値観をもつ人々が生活する中で生じる課題に向き合う（対応する）能力を養うために、「看護管理学」「看護倫理」「哲学概論」「倫理学概論」「道德教育の理論と方法」を配置する。
-
- ⑦ 地域で暮らす人々の健康を支える看護を実践する能力を養うために、「プライマリヘルスケア演習」「生涯健やか看護学」「生涯健やか看護学演習」「生涯健やか看護学実習」「生涯健やか事業構想論」を配置する。
-
- ⑧ 医療ニーズの高い人々に対して看護を実践する能力を養うために、「健康回復看護学」「ヘルスクライシス疾病論」「健康回復看護学演習」「健康回復看護学実習」「助産診断学」「助産技術学」を配置する。
-
- ⑨ 人によりそう看護を創造・実践し、社会に貢献できる能力を養うために、「看護学原論」「看護教育学」「エンドオブライフケア論」「キャリア開発演習 VI」「総合看護学実習」「助産学実習」「生涯健やか事業展開実習」を配置する。

2. 各回生の到達目標

ディプロマ・ポリシー（DP）

- ① 創造的な発想、多角的な視点を持ち、新しい看護を生み出し社会に発信できる力を身につけている。
-
- ② あらゆる環境において、歴史的・社会的・文化的に多様な背景を持った、生活を営む人々について考えられる力を身につけている。
-
- ③ 自己理解と他者理解を深め、人々との良好な関係とネットワークを築くことができる力を身につけている。
-
- ④ 自然との関係の中で人をとらえ、生命機能のメカニズムや生命の尊さを考えることができる力を身につけている。

カリキュラム目標

区分1 看護学を学ぶための主体的な姿勢や基礎的な能力を養う。

区分2 様々な環境で多様な生活を営む人々を理解するための基礎的な能力を養う。

区分3 ライフサイクルの視点を通して、人々を理解し、他者との関係性を築く能力を養う。

区分4 ライフサイクルを基盤に生命科学の視点から人々を理解する能力を養う。

区分5 看護を創造し、社会に発信するための基礎的な能力を養う。

区分6 多様な背景や価値観をもつ人々が生活する中で生じる課題に向き合う（対応する）能力を養う。

区分7 地域で暮らす人々の健康を支える看護を実践する能力を養う。

区分8 医療ニーズの高い人々に対して看護を実践する能力を養う。

区分9 人によりそう看護を創造・実践し、社会に貢献できる能力を養う。

1回生

看護の基本概念を理解するとともに、多様な背景をもち生活を営む人々について理解するための基礎的な能力を養う。

区分1

看護に関心をもち主体的に学ぶ基礎的な能力を身につける。

区分2

多様な環境における人々の健康や生活に関心を寄せ、生活や健康に影響する要因を踏まえた援助方法を検討することができる。

区分3

ライフサイクルにおける人々の生活を述べることができる。自分自身をモニタリングすることができる。

区分4

人体の構造と機能について学び、健康状態をアセスメントする基礎的な能力を身につける。

区分5

看護を創造し発信するための情報の活用方法や、情報を処理する基礎的手法を習得することができる。

区分6

哲学的な観点をもち、多様な価値観、倫理観を対象者理解に活用することができる。

区分7

地域で生活するライフサイクル各期の人々を取り巻く環境や生活と健康との関係を述べることができる。

区分8

看護の対象となる人々の健康維持・促進および健康回復に関心を寄せることができる。

区分9

多様な背景を持つ人によりそう看護を実践するための基礎概念、看護理論の必要性を記述することができる。

2回生

看護の実際に触れながら、他者と良好な関係を構築し、看護を実践する基礎的な能力を養う。

区分1

他者との討議の中で論理的かつ客観的思考を整理することができる。

区分2

多様な生活環境における健康課題が明示でき、その課題を解決する方法を検討することができる。

区分3

対象理解に必要な情報を収集し、他者との関係性を構築することができる。

区分4

ライフサイクルに関連した疾患を踏まえて対象を理解し、それに対する援助を考えることができる。

区分5

看護を含む様々な学問や理論に触れ、看護の役割や専門職としてのやりがいを見出すことができる。

区分6

多様な価値観、倫理観を尊重したコミュニケーションをとることができ、他者との良好な関係を構築することができる。

区分7

地域で暮らす人々の健康課題を見出し、課題解決方法を計画し、対象者との関係を構築しながら実施、評価することができる。

区分8

医療ニーズがある人々の健康上の課題をアセスメントし、看護技術を正確に実践することができる。

区分9

看護の実践を理論と関連付けて考察し、他者の経験を聞き、共有しながら、よりそう看護について議論できる。

3回生

自らの看護実践を通して、課題を見つけ解決する力を養うとともに、対象者一人ひとりに合わせたより良い看護を実践できる能力を養う。

区分5

看護を探究するために必要となる看護研究についての基礎的知識を習得することができる。

区分6

看護の倫理的配慮および看護管理的な視点をもって、対象者の有する課題を見出し、課題解決に向けて取り組むことができる。

区分7

環境、生活、健康を関連させて健康課題を分析し、対象者に合わせた看護を実施することができる。また、多職種連携の意義やその中での看護の専門性を明示することができる。

区分8

既習の知識や看護技術を用いて医療ニーズの高い対象者に合わせた看護を実践することができる。

区分9

対象者一人ひとりに合わせた看護を創造・実践することができる。

4回生

看護の本質を追究しつつ、よりそう看護を創造し、社会に貢献できる能力を養う。

区分5

社会の変遷を分析し、未来のよりそう看護を創造し提案することができる。

区分6

いかなる場においても対象者を尊重し、生じた課題に向き合い、課題解決にむけた看護を創造することができる。

区分7

地域や現代社会における健康課題が明示でき、課題解決のために必要なプロセスを踏まえた、人々によりそう看護を創造できる。

区分8

医療ニーズの高い人々に対して、既存の知識や看護技術を応用した看護を創造することができる。

区分9

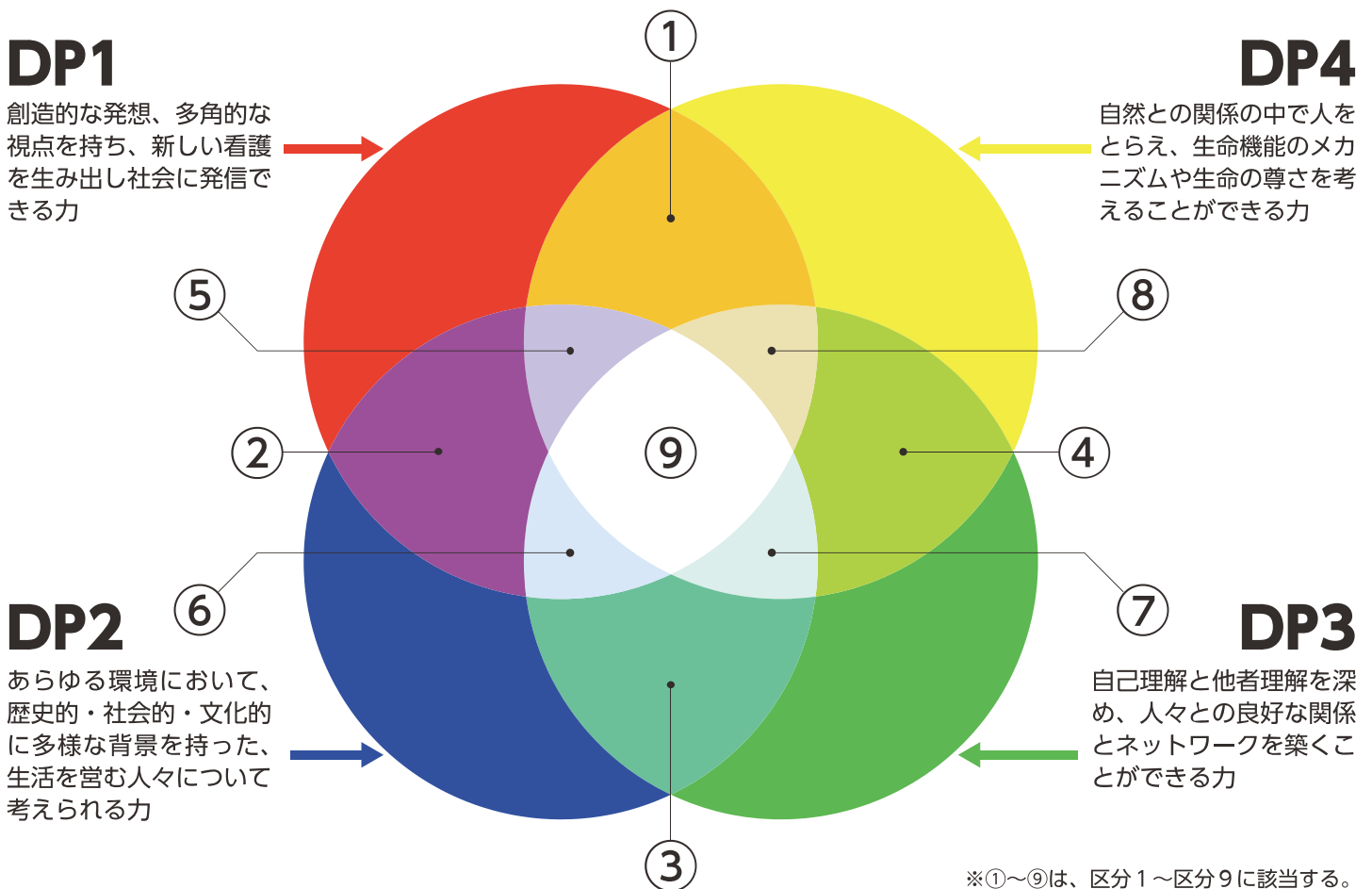
人の生涯によりそう看護の本質を創造・実践しつづけることができる。

3. カリキュラムのねらい

看護学部看護学科では、時代や社会の変化に対応しながら、看護の本質は何か、役割は何かを常に考え、実践し、創造できる人材を育成することを目指し、カリキュラムを構築しています。

4つのディプロマポリシーを4原色にたとえ、重なり合う部分等を合わせてカリキュラムポリシーの主軸となる9つの教育目標を設定しました。その組み合わせによって、多様な看護実践の方向性とあり方を学びます。特に、今後さらに拡大する看護の場において、看護の意味と役割を考え、自らが新たな看護方法論を創造できる基礎的な力を育むための科目を重視し、また地域社会における看護の場をさらに中心に据えています。その一方で、加速化する情報化社会、科学技術のさらなる進歩においては、人と人とのつながりが重要であるため、改めて、自己理解と他者理解を深め、人として、そして看護に必要な対人関係や他者を思いやる感性を磨くための科目も重視しています。

4原色の中心に位置する白い部分は看護の本質を問う部分です。この部分は常に「人によりそう看護」とは何かを問い続けるために、自身の学びを確認できる科目でもあります。そして、卒業後は、この白い色に卒業生独自の「人によりそう看護」の色をつける、創造していくという意味を持たせたカリキュラムを展開しています。



4. 学修成果の評価

看護学部は、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーに基づき、教育プログラムレベル、科目レベルで、毎年、学生の学修成果を評価・把握し、教育および学習の改善につなげます。そして、明らかになった課題については、看護学部におい

る組織の課題として取扱い、組織改善を含む教育改善を行っていきます。

また、学生自らが到達度を把握し、学生自身が学習課題を明確にしながらか主体的に学び成長していけるよう支援します。

5. カリキュラムの概要

看護学部のカリキュラムは、看護系大学における教育課程として、資格取得とリベラルアーツを有機的に関連させ、看護学の視点に立った保健師・助産師・看護師の三職種統合教育を目指しています。時代や社会の変化に対応しながら、看護の本質は何か、役割は何かを常に考え、実践し、創造できる人材を育成することを目指し、カリキュラムを構築しています。

9つの教育目標の組み合わせによって、多様な看護実践の方向性とあり方を学びます。特に、今後さらに拡大する看護の場において、看護の意味と役割を考え、自らが新たな看護方法論を創造できる基礎的な力を育むための科目を重視し、また地域社会における看護の場をさらに中心に据えています。その一方で、加速化する情報化社会、科学技術のさらなる進歩においては、人と人とのつながりが重要であるため、改めて、自己理解と他者理解を深め、人として、そして看護に必要な対人関係や他者を思いやる感性を磨くための科目も重視しています。

回生	1回生	2回生	3回生	4回生
各回生の目標	看護の基本概念を理解するとともに、多様な背景をもち生活を営む人々について理解するための基礎的な能力を養う。	看護の実際に触れながら、他者と良好な関係を構築し、看護を実践する基礎的な能力を養う。	自らの看護実践を通して、課題を見つけ解決する力を養うとともに、対象者一人ひとりに合わせたより良い看護を実践できる能力を養う。	看護の本質を追究しつつ、よりそう看護を創造し、社会に貢献できる能力を養う。
区分1 看護学を学ぶための主体的な姿勢や基礎的な能力を養う。	キャリア開発演習Ⅰ（看護） キャリア開発演習Ⅱ（看護） 英語ⅠA・ⅠB 英語ⅡA・ⅡB 論理的思考 教養入門	キャリア開発演習Ⅲ（看護） キャリア開発演習Ⅳ（看護） 英語ⅢA・ⅢB 英語ⅣA・ⅣB		
区分2 様々な環境で多様な生活を営む人々を理解するための基礎的な能力を養う。	プライマリヘルスケアⅠ プライマリヘルスケアⅡ 災害看護学Ⅰ 地域課題研究	プライマリヘルスケアⅢ 国際看護学Ⅰ 災害看護学Ⅱ※1		
区分3 ライフサイクルの視点を通して、人々を理解し、他者との関係性を築く能力を養う。	ライフサイクル論 家族看護学 対人ネットワーク論	生涯健やか看護学実習Ⅱ-1（デイケア）		
区分4 ライフサイクルを基盤に生命科学の視点から人々を理解する能力を養う。	フィジカルアセスメントⅠ フィジカルアセスメントⅡ フィジカルアセスメント演習Ⅰ フィジカルアセスメント演習Ⅱ	ライフサイクル疾病論		
区分5 看護を創造し、社会に発信するための基礎的な能力を養う。	情報科学Ⅰ 情報科学Ⅱ 統計学基礎論	看護創造論Ⅰ	キャリア開発演習Ⅴ（看護）	看護創造論Ⅱ
区分6 多様な背景や価値観をもつ人々が生活する中で生じる課題に向き合う（対応する）能力を養う。	哲学概論 倫理学概論 道德教育の理論と方法 3科目の中から1科目以上選択必修		看護倫理Ⅰ 看護管理学Ⅰ	看護管理学ⅡA※2 看護管理学ⅡB※2 国際看護学Ⅱ※2 看護倫理Ⅱ※1
区分7 地域で暮らす人々の健康を支える看護を実践する能力を養う。	生涯健やか看護学実習Ⅰ	プライマリヘルスケア演習 生涯健やか看護学実習Ⅱ-2（老健） 生涯健やか看護学実習Ⅱ-3（包括）	生涯健やか看護学 生涯健やか看護学演習 生涯健やか看護学実習Ⅲ-1（訪問） 生涯健やか看護学実習Ⅲ-2（訪問） 生涯健やか看護学実習Ⅲ-3（母性）	生涯健やか事業構想論※1
区分8 医療ニーズの高い人々に		健康回復看護学Ⅰ 健康回復看護学Ⅱ 健康回復看護学演習Ⅰ	ヘルスクライシス疾病論 健康回復看護学Ⅲ 健康回復看護学演習Ⅲ	助産技術学※1

対して看護を実践する能力を養う。		健康回復看護学演習 II 健康回復看護学実習 I (病院)	健康回復看護学実習 II-1 健康回復看護学実習 II-2 (こども) 健康回復看護学実習 II-3 (こころ) 助産診断学 ※1	
区分9 人によりそう看護を創造・実践し、社会に貢献できる能力を養う。	看護学原論 I	看護学原論 II	看護教育学 I	看護学原論 III 看護教育学 II ※2 キャリア開発演習 VI (看護) エンドオブライフケア論 総合看護学実習 助産学実習 ※1 生涯健やか事業展開実習 ※1

※1：自由科目 ※2：4科目から選択必修

6. 履修条件

看護学部のカリキュラムは、系統的に構成されています。したがって、次の履修条件を満たさなければ、履修できない科目があります。

① 各回生において、後期に開講される区分1～9の必修科目を履修するには、前期に開講される区分1～9の必修科目のうち、以下の科目を除いた全ての科目を修得済みであること

区分1

「知へのマインドセット」「英語 I A」「英語 I B」「英語 II A」「英語 II B」「英語 III A」「英語 III B」「英語 IV A」「英語 IV B」

区分5

「情報科学 I」「情報科学 II」

② 2回生以上配当の前期に開講される区分1～9の必修科目を履修するには、前年度後期までに開講される区分1～9の必修科目のうち、以下の科目を除いた全ての科目を修得済みであること

区分1

「知へのマインドセット」「英語 I A」「英語 I B」「英語 II A」「英語 II B」「英語 III A」「英語 III B」「英語 IV A」「英語 IV B」

区分5

「情報科学 I」「情報科学 II」

③ 別表1のとおり、履修条件として記載している科目の履修状況によっては、記載の実習科目を履修できないことがある

④ 別表2のとおり、履修条件に記載の科目を修得または履修していない場合は、記載の自由科目を履修できない

【別表1】

対象科目	履修条件
生涯健やか看護学実習 II-2 (老健)	「健康回復看護学 I」「健康回復看護学演習 I」「プライマリヘルスケア III」「プライマリヘルスケア演習」
生涯健やか看護学実習 II-3 (包括) 健康回復看護学実習 I (病院)	「健康回復看護学 II」「健康回復看護学演習 II」

【別表2】

対象科目	履修条件
災害看護学 II	「災害看護学 I」を修得済み
生涯健やか事業構想論	希望する自由科目以外の区分7の全ての科目を修得済み
看護倫理 II	「看護倫理 I」を修得済み
助産学実習	「助産診断学」を修得済み、「助産技術学」「看護管理学 II B」を履修していること

生涯健やか事業展開実習	「生涯健やか事業構想論」を履修していること
-------------	-----------------------

英語 I A～IV Bについて

本学では、系統的で継続性のある効果的な学修を実現することを目的として、履修条件（履修制限）を設定しています。

対象科目	履修条件
英語 III A／英語 IV A	英語 I Aまたは II Aを修得済みであること。
英語 III B／英語 IV B	英語 I Bまたは II Bを修得済みであること。

7. 取得できる免許・資格

(1) 取得可能資格一覧

看護学部で取得できる資格は、以下の4種類です。

資格名称	対象者
看護師国家試験 受験資格	看護学部全員
助産師国家試験 受験資格	看護学部生のうち選択履修者
保健師国家試験 受験資格	看護学部生のうち選択履修者
教育職員（養護教諭一種）免許状	看護学部生のうち選択履修者

※4回生の2月頃に、看護師、保健師、助産師国家試験があります。詳細については、国家試験受験ガイドンスで説明します。

※教育職員（養護教諭二種）免許状：保健師の免許を受けている者に限り、表Bに定める科目単位を修得することで、都道府県教育委員会への申請により取得できます。

(2) 取得可能な免許・資格

養護教諭一種免許状※1 ▶

※1 看護学部における保健師国家試験受験資格、助産師国家試験受験資格と養護教諭一種免許状については、選択履修により取得が可能となるものです。

(3) 取得可能な受験資格

看護師国家試験受験資格 ▶

保健師国家試験受験資格※1 ▶

助産師国家試験受験資格
※1 ※2 ▶

※1看護学部における保健師国家試験受験資格、助産師国家試験受験資格と養護教諭一種免許状については、選択履修により取得が可能となるものです。

※2女性のみ。

看護学部看護学科については、こちらもご確認ください

カリキュラムマップ ▶

カリキュラム表 ▶

科目概要 ▶

【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

看護学部 看護学科

カリキュラムマップ

看護学部 看護学科 ▶

カリキュラム表 ▶

科目概要 ▶

▼ 1. どのような状況でも人によりそう看護を創造し実践できる力

▼ 2. 教養教育科目群

全学共通の到達目標

- ① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
- ② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
- ③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
- ④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
- ⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
- ⑥ 物事を論理的に分析する能力の獲得
- ⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得

学科・コース別の ディプロマ・ポリシー

- ① 創造的な発想、多角的な視点を持ち、新しい看護を生み出し社会に発信できる力
- ② あらゆる環境において、歴史的・社会的・文化的に多様な背景を持った、生活を営む人々について考えられる力
- ③ 自己理解と他者理解を深め、人々との良好な関係とネットワークを築くことができる力
- ④ 自然との関係の中で人をとらえ、生命機能のメカニズムや生命の尊さを考えることができる力

「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。

各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

科目ナンバーの見方

〈例〉 $\frac{NU}{1} - \frac{1}{2} \frac{1}{3} \frac{1}{4}$

1 学科	NU : 看護学科
2 回生	1 : 1回生 2 : 2回生 3 : 3回生 4 : 4回生
3 区分	0 : 教職科目 1 : 区分1 2 : 区分2 3 : 区分3 4 : 区分4 5 : 区分5 6 : 区分6 7 : 区分7 8 : 区分8 9 : 区分9
4 履修順序	同系科目中の履修順序

1. どのような状況でも人によりそう看護を創造し実践できる力

看護学を学ぶための主体的な姿勢や基礎的な能力を養う

[選択必修科目12単位を含め28単位必修（教養教育科目から12単位以上選択必修）]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	実施期間	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
NU-111	キャリア開発演習Ⅰ（看護）	1	必修	演習	1回生	前期	①②⑦	①④
NU-112	キャリア開発演習Ⅱ（看護）	1	必修	演習	1回生	後期	①②⑦	①④
NU-213	キャリア開発演習Ⅲ（看護）	1	必修	演習	2回生	前期	①②⑥⑦	①④
NU-214	キャリア開発演習Ⅳ（看護）	1	必修	演習	2回生	後期	①②⑥⑦	①④
NU-111	英語ⅠA	1	必修	演習	1回生	前期	①②④⑤⑥⑦	-
NU-111	英語ⅠB	1	必修	演習	1回生	前期	①②④⑤⑥⑦	-
NU-112	英語ⅡA	1	必修	演習	1回生	後期	①②④⑤⑥⑦	-
NU-112	英語ⅡB	1	必修	演習	1回生	後期	①②④⑤⑥⑦	-
NU-213	英語ⅢA	1	必修	演習	2回生	前期	①②④⑤⑥⑦	-
NU-213	英語ⅢB	1	必修	演習	2回生	前期	①②④⑤⑥⑦	-
NU-214	英語ⅣA	1	必修	演習	2回生	後期	①②④⑤⑥⑦	-
NU-214	英語ⅣB	1	必修	演習	2回生	後期	①②④⑤⑥⑦	-
NU-111	論理的思考	2	必修	講義	1回生	前期	②⑥⑦	①④
NU-111	教養入門	2	必修	講義	1回生	前期	①②③④⑤⑥⑦	-
	教養教育科目群	12	選択		1回生			

区分2

様々な環境で多様な生活を営む人々を理解するための基礎的な能力を養う

[10単位必修]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	実施期間	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
NU-121	災害看護学Ⅰ	1	必修	講義	1回生	後期	①③④⑤	①②
NU-222	災害看護学Ⅱ	1	自由	講義	2回生	前期	①③④⑤	①②
NU-221	国際看護学Ⅰ	2	必修	講義	2回生	後期	①③④	①②
NU-121	プライマリヘルスケアⅠ	2	必修	講義	1回生	前期	①②③④⑤	①②
NU-122	プライマリヘルスケアⅡ	2	必修	講義	1回生	後期	①④⑥	①②
NU-223	プライマリヘルスケアⅢ	2	必修	講義	2回生	前期	①②④	①②
NU-121	地域課題研究	1	必修	演習	1回生	通年	①②③④⑤⑥⑦	-

区分3

ライフサイクルの視点を通して、人々を理解し、他者との関係性を築く能力を養う

[5単位必修]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	実施期間	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
NU-131	家族看護学	1	必修	講義	1回生	後期	①③④	②③
NU-131	対人ネットワーク論	2	必修	講義	1回生	前期	③④⑤	②③
NU-131	ライフサイクル論	1	必修	講義	1回生	前期	①②⑤	②③
NU-231	生涯健やか看護学実習Ⅱ-1（デイケア）	1	必修	実習・実技	2回生	前期	③④⑤⑥⑦	②③

区分4

ライフサイクルを基盤に生命科学の視点から人を理解する能力を養う

[12単位必修]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	実施期間	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
NU-141	フィジカルアセスメントⅠ	4	必修	講義	1回生	前期	①②④⑥	③④
NU-142	フィジカルアセスメントⅡ	4	必修	講義	1回生	後期	①②④⑥	③④
NU-141	フィジカルアセスメント演習Ⅰ	1	必修	演習	1回生	後期	③④⑥⑦	③④

NU-142	フィジカルアセスメント演習 II	1	必修	演習	1回生	後期	③④⑥⑦	③④
NU-241	ライフサイクル疾病論	2	必修	講義	2回生	前期	①②④	③④

区分5

看護を創造し、社会に発信するための基礎的な能力を養う

[7単位必修]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	実施期間	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
NU-251	看護創造論 I	1	必修	講義	2回生	後期	①②③⑤⑥	①②④
NU-452	看護創造論 II	1	必修	講義	4回生	後期	②③⑤⑥	①②④
NU-351	キャリア開発演習 V (看護)	1	必修	演習	3回生	前期	②⑥⑦	①②④
NU-151	情報科学 I	1	必修	演習	1回生	前期	①②⑦	①②④
NU-152	情報科学 II	1	必修	演習	1回生	後期	①②⑥	①②④
NU-151	統計学基礎論	2	必修	講義	1回生	前期	①⑤⑥	①②④

区分6

多様な背景や価値観をもつ人々が生活する中で生じる課題に向き合う (対応する) 能力を養う

[選択必修2単位を含め6単位必修]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	実施期間	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
NU-361	看護管理学 I	2	必修	講義	3回生	前期	①②⑤	①②③	
NU-461	看護管理学 II A	2	選択	講義	4回生	前期	①②⑤	①②③	
NU-461	看護管理学 II B	2	選択	講義	4回生	前期	①②⑤	①②③	
NU-361	看護倫理 I	2	必修	講義	3回生	前期	③④⑤	①②③	
NU-462	看護倫理 II	1	自由	講義	4回生	前期	③④⑤	①②③	
NU-461	国際看護学 II	2	選択	講義	4回生	通年	①②④⑤⑥	①②	
NU-161	哲学概論	2	選択	講義	1回生	前期	①②③④⑤⑥	-	2単位以上 選択必修
NU-161	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	後期	①②③④⑤⑥	-	
NU-161	道德教育の理論と方法	2	選択	講義	1回生	後期	①②③⑤⑦	-	

区分7

地域で暮らす人々の健康を支える看護を実践する能力を養う

[16単位必修]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	実施期間	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
NU-271	プライマリヘルスケア演習	1	必修	演習	2回生	前期	⑤⑥⑦	②③④
NU-372	生涯健やか看護学	2	必修	講義	3回生	前期	①④⑥	②③④
NU-371	生涯健やか看護学演習	1	必修	演習	3回生	前期	②⑤⑥	②③④
NU-171	生涯健やか看護学実習 I	1	必修	実習・実技	1回生	通年	③④⑤⑥⑦	②③④
NU-271	生涯健やか看護学実習 II-2 (老健)	2	必修	実習・実技	2回生	前期	③④⑤⑥⑦	②③④
NU-271	生涯健やか看護学実習 II-3 (包括)	1	必修	実習・実技	2回生	後期	③④⑤⑥⑦	②③④
NU-371	生涯健やか看護学実習 III-1 (訪看)	4	必修	実習・実技	3回生	後期	③④⑤⑥⑦	②③④
NU-371	生涯健やか看護学実習 III-2 (訪看)	2	必修	実習・実技	3回生	後期	③④⑤⑥⑦	②③④
NU-371	生涯健やか看護学実習 III-3 (母性)	2	必修	実習・実技	3回生	後期	⑤⑥⑦	②③④
NU-471	生涯健やか事業構想論	2	自由	講義	4回生	前期	⑤⑥⑦	②③④

区分8

医療ニーズの高い人々に対して看護を実践する能力を養う

[27単位必修]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	実施期間	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
NU-281	健康回復看護学Ⅰ	4	必修	講義	2回生	前期	①②④⑥	①③④
NU-282	健康回復看護学Ⅱ	4	必修	講義	2回生	後期	①②④⑥	①③④
NU-283	健康回復看護学Ⅲ	2	必修	講義	3回生	前期	①④⑥	①③④
NU-381	ヘルスクライシス疾病論	4	必修	講義	3回生	前期	①④⑥	①③④
NU-281	健康回復看護学演習Ⅰ	2	必修	演習	2回生	前期	④⑤⑦	①③④
NU-282	健康回復看護学演習Ⅱ	2	必修	演習	2回生	後期	①⑤⑥	①③④
NU-383	健康回復看護学演習Ⅲ	2	必修	演習	3回生	前期	②⑤⑥	①③④
NU-281	健康回復看護学実習Ⅰ(病院)	2	必修	実習・実技	2回生	後期	③④⑤⑥⑦	①③④
NU-381	健康回復看護学実習Ⅱ-1	2	必修	実習・実技	3回生	後期	⑤⑥⑦	①③④
NU-381	健康回復看護学実習Ⅱ-2(こども)	2	必修	実習・実技	3回生	後期	⑤⑥⑦	①③④
NU-381	健康回復看護学実習Ⅱ-3(こころ)	1	必修	実習・実技	3回生	後期	⑤⑥⑦	①③④
NU-381	助産診断学	4	自由	講義	3回生	後期	②③⑥	①③④
NU-481	助産技術学	4	自由	講義	4回生	前期	②③⑤⑥	①③④

区分9

人によりそう看護を創造・実践し、社会に貢献できる能力を養う

[11単位必修]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	実施期間	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
NU-191	看護学原論Ⅰ	1	必修	講義	1回生	前期	②③④	①②③④
NU-292	看護学原論Ⅱ	1	必修	講義	2回生	後期	②③⑤⑥	①②③④
NU-493	看護学原論Ⅲ	1	必修	講義	4回生	前期	②③④⑤⑥	①②③④
NU-391	看護教育学Ⅰ	2	必修	講義	3回生	前期	①②⑤	①②③④
NU-391	看護教育学Ⅱ	2	選択	講義	4回生	前期	①②⑤	①②③④
NU-491	エンドオブライフケア論	1	必修	実習・実技	4回生	後期	③④⑤⑥⑦	①②③④
NU-491	キャリア開発演習Ⅵ(看護)	2	必修	講義	4回生	通年	③④⑤⑥	①②③④
NU-491	総合看護学実習	3	必修	演習	4回生	通年	①②③④⑤⑥⑦	①②③④
NU-491	助産学実習	8	自由	実習・実技	4回生	通年	⑤⑥⑦	①②③④
NU-491	生涯健やか事業展開実習	3	自由	実習・実技	4回生	通年	⑤⑥⑦	①②③④

※ ■…2単位以上選択必修

※ 卒業要件を合計すると122単位となる。卒業に必要である残りの2単位については、「看護管理学ⅡA」「看護教育学Ⅱ」「国際看護学Ⅱ」より1科目2単位選択必修(ただし、助産師課程履修者は「看護管理学ⅡB」2単位必修)とする。

※ 保健師国家試験受験資格を取得する場合は、「生涯健やか事業構想論」、「生涯健やか事業展開実習」を必修とする。

※ 助産師国家試験受験資格を取得する場合は、「看護管理学ⅡB」、「助産診断学」、「助産技術学」、「助産学実習」を必修とする。

2. 教養教育科目群

(1) 教養教育科目群より12単位を選択必修

教養教育科目群

【人間と知の伝達】現代の思想								
科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標		
NU-111	日本人と宗教	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤		
NU-111	ジェンダー研究	2	選択	講義	1回生	①②③④⑦		
NU-211	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤		
NU-211	心理学概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤		

【人間と知の伝達】メディアと情報								
科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標		

NU-111	言語コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②⑦
NU-111	現代のメディアと表現	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
NU-111	情報社会論	2	選択	講義	1回生	①②⑥⑦
NU-211	情報処理演習 III	1	選択	演習	2回生	①②⑥
NU-211	情報処理演習 IV	1	選択	演習	2回生	①②⑥
NU-211	情報処理演習 V	1	選択	演習	2回生	①②⑥
NU-211	情報処理演習 VI	1	選択	演習	2回生	①②⑥
NU-111	数学演習 I	2	選択	演習	1回生	①②⑥
NU-111	数学演習 II	2	選択	演習	1回生	①②⑥

【人間と文化】外国語と文化理解

科目NO	授業科目の名称	単位数	選択の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
NU-111	比較文化論	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
NU-111	文化人類学	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
NU-111	芸術と文化	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
NU-111	中国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
NU-112	中国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
NU-113	中国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
NU-114	中国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
NU-111	韓国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
NU-112	韓国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
NU-113	韓国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
NU-114	韓国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
NU-111	フランス語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
NU-112	フランス語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
NU-111	ドイツ語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
NU-112	ドイツ語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
NU-111	外国語臨地演習	2	選択	演習	1回生	①②③④⑤⑦

【人間と文化】歴史・文化

科目NO	授業科目の名称	単位数	選択の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
NU-111	歴史学入門	2	選択	講義	1回生	①②⑥
NU-111	京都講座 I	2	選択	講義	1回生	①②③
NU-111	京都講座 II	2	選択	講義	1回生	①②③
NU-111	京都の歴史・文化 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
NU-111	京都の歴史・文化 II	2	選択	講義	1回生	①②③
NU-111	文学と京都	2	選択	講義	1回生	①②④

【人間と社会】法律・行政・政治

科目NO	授業科目の名称	単位数	選択の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
NU-111	日本国憲法	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
NU-111	法学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
NU-111	法学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
NU-211	民法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
NU-211	行政法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
NU-211	人権と教育	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤
NU-111	政治学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④
NU-111	政治学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④
NU-211	国際関係入門	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤

【人間と社会】経済・経営・社会

科目NO	授業科目の名称	単位数	選択の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
NU-211	行政学	2	選択	講義	2回生	①②⑥
NU-111	くらしと経済	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
NU-211	経済学概論 I	2	選択	講義	2回生	①②④
NU-211	経済学概論 II	2	選択	講義	2回生	①②④

NU-111	経営学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
NU-111	会計学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
NU-111	福祉とボランティア	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦
NU-111	社会学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
NU-111	社会学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④⑥
NU-111	時事問題研究	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥⑦

【人間と自然】健康・こころ・からだ

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
NU-111	健康に生きる I	2	選択	講義	1回生	①②④⑤
NU-111	健康に生きる II	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥
NU-111	健康に生きる III	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦
NU-111	体育理論	2	選択	講義	1回生	①②⑤
NU-111	スポーツコース I	1	選択	実験・実技	1回生	①②③⑤⑦
NU-111	スポーツコース II	1	選択	実験・実技	1回生	①②③⑤⑦
NU-111	スポーツコース III	1	選択	実験・実技	1回生	①②③⑤⑦
NU-111	スポーツコース IV	1	選択	実験・実技	1回生	①②③⑤⑦

【人間と自然】自然と環境

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
NU-111	地球生命論	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
NU-111	地球環境論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
NU-111	エコロジー研究	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
NU-111	自然の探求	2	選択	講義	1回生	①②⑥⑦
NU-111	地理学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
NU-111	生活の中の数学	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥
NU-111	物理学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
NU-111	化学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
NU-111	生物学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥

(2) 卒業要件外科目

自由科目群

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
NU-201	学校保健	2	自由	講義	2回生	①②③④⑤⑥⑦
NU-201	養護概説	2	自由	講義	2回生	①②③④⑤⑥⑦
NU-201	精神保健	2	自由	講義	2回生	①②③④⑤⑥⑦
NU-101	教職入門	2	自由	講義	1回生	①②③⑤⑦
NU-101	教育原論	2	自由	講義	1回生	①②③⑤⑦
NU-101	教育心理学	2	自由	講義	1回生	①②③⑤⑦
NU-201	教育制度論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
NU-201	教育課程論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
NU-201	特別活動論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
NU-201	教育方法論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
NU-301	生徒指導論	2	自由	講義	3回生	①③④⑤
NU-201	教育相談	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
NU-401	教職実践演習(養護)	2	自由	演習	4回生	①②③⑤⑥⑦
NU-301	養護実習(事前・事後指導を含む)	5	自由	実習・実技	3回生	①②③④⑤⑥⑦
NU-201	特別支援教育論	1	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
NU-201	総合的な学習の時間の指導法	1	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
NU-101	学校等体験活動	1	自由	実験・実技	1回生	①②③⑤⑥⑦

【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

看護学部 看護学科

カリキュラム表

看護学部 看護学科 ▶	カリキュラムマップ ▶	科目概要 ▶
-------------	-------------	--------

区分1 28単位 必修16単位 選択必修12単位	区分2 10単位 必修10単位	区分3 5単位 必修5単位	区分4 12単位 必修12単位	区分5 7単位 必修7単位
区分6 6単位 必修4単位 選択必修2単位	区分7 16単位 必修16単位	区分8 27単位 必修27単位	区分9 11単位 必修11単位	区分6、 区分9より 選択必修2単位 (4年次)

卒業要件
124
 単位

1. 区分1 必修科目

16単位

	単位	回生		単位	回生		単位	回生
キャリア開発演習Ⅰ（看護）	1	1	英語ⅠA	1	1	英語ⅣA	1	2
キャリア開発演習Ⅱ（看護）	1	1	英語ⅠB	1	1	英語ⅣB	1	2
キャリア開発演習Ⅲ（看護）	1	2	英語ⅡA	1	1	論理的思考	2	1
キャリア開発演習Ⅳ（看護）	1	2	英語ⅡB	1	1	教養入門	2	1
			英語ⅢA	1	2			
			英語ⅢB	1	2			

2. 区分1 選択必修科目

12単位

教養教育科目群

領域 人間と知の伝達

〔分野〕 現代の思想

	単位	回生
日本人と宗教	2	1～
ジェンダー研究	2	1～
宗教学概論	2	1～
心理学概論	2	1～

〔分野〕 メディアと情報

領域 人間と文化

〔分野〕 外国語と文化理解

	単位	回生
比較文化論	2	1～
文化人類学	2	1～
芸術と文化	2	1～
中国語Ⅰ	2	1～
中国語Ⅱ	2	1～
中国語Ⅲ	2	1～

領域 人間と社会

〔分野〕 法律・行政・政治

	単位	回生
日本国憲法	2	1～
法学概論Ⅰ	2	1～
法学概論Ⅱ	2	1～
民法	2	2～
行政法	2	2～
人権と教育	2	2～

領域 人間と自然

〔分野〕 健康・こころ・からだ

	単位	回生
健康に生きるⅠ	2	1～
健康に生きるⅡ	2	1～
健康に生きるⅢ	2	1～
体育理論	2	1～
スポーツコースⅠ	1	1～

	単位	回生
言語コミュニケーション論	2	1～
現代のメディアと表現	2	1～
情報社会論	2	1～
情報処理演習 III	1	2～
情報処理演習 IV	1	2～
情報処理演習 V	1	2～
情報処理演習 VI	1	2～
数学演習 I	2	1～
数学演習 II	2	1～

中国語 IV	2	1～
韓国語 I	2	1～
韓国語 II	2	1～
韓国語 III	2	1～
韓国語 IV	2	1～
フランス語 I	2	1～
フランス語 II	2	1～
ドイツ語 I	2	1～
ドイツ語 II	2	1～
外国語臨地演習	2	1～

政治学概論 I	2	1～
政治学概論 II	2	1～
国際関係入門	2	2～

スポーツコース II	1	1～
スポーツコース III	1	1～
スポーツコース IV	1	1～

[分野] 経済・経営・社会

	単位	回生
行政学	2	2～
くらしと経済	2	1～
経済学概論 I	2	2～
経済学概論 II	2	2～
経営学概論	2	1～
会計学概論	2	1～
福祉とボランティア	2	1～
社会学概論 I	2	1～
社会学概論 II	2	1～
時事問題研究	2	1～

[分野] 自然と環境

	単位	回生
地球生命論	2	1～
地球環境論	2	1～
エコロジー研究	2	1～
自然の探求	2	1～
地理学概論	2	1～
生活の中の数学	2	1～
物理学基礎	2	1～
化学基礎	2	1～
生物学基礎	2	1～

[分野] 歴史・文化

	単位	回生
歴史学入門	2	1～
京都講座 I	2	1～
京都講座 II	2	1～
京都の歴史・文化 I	2	1～
京都の歴史・文化 II	2	1～
文学と京都	2	1～

3. 専門教育科目群 必修

区分2

10単位

	単位	回生
災害看護学 I	1	1
国際看護学 I	2	2
プライマリヘルスケア I	2	1
プライマリヘルスケア II	2	1
プライマリヘルスケア III	2	2
地域課題研究	1	1

区分3

5単位

	単位	回生
家族看護学	1	1
対人ネットワーク論	2	1
ライフサイクル論	1	1
生涯健やか看護学実習 II-1 (デイケア)	1	2

区分4

12単位

	単位	回生
フィジカルアセスメント I	4	1
フィジカルアセスメント II	4	1
フィジカルアセスメント演習 I	1	1
フィジカルアセスメント演習 II	1	1
ライフサイクル疾病論	2	2

区分5

7単位

	単位	回生
看護創造論 I	1	2
看護創造論 II	1	4
キャリア開発演習 V (看護)	1	3
情報科学 I	1	1
情報科学 II	1	1
統計学基礎論	2	1

区分6

4単位

	単位	回生
看護管理学 I	2	3
看護倫理 I	2	3

区分7

16単位

	単位	回生
プライマリヘルスケア演習	1	2
生涯健やか看護学	2	3
生涯健やか看護学演習	1	3
生涯健やか看護学実習 I	1	1
生涯健やか看護学実習 II-2 (老健)	2	2
生涯健やか看護学実習 II-3 (包括)	1	2
生涯健やか看護学実習 III-1 (訪看)	4	3
生涯健やか看護学実習 III-2 (訪看)	2	3
生涯健やか看護学実習 III-3 (母性)	2	3

区分8

27単位

	単位	回生

区分9

11単位

	単位	回生

健康回復看護学 I	4	2
健康回復看護学 II	4	2
健康回復看護学 III	2	3
ヘルスクライシス疾病論	4	3
健康回復看護学演習 I	2	2
健康回復看護学演習 II	2	2
健康回復看護学演習 III	2	3
健康回復看護学実習 I (病院)	2	2
健康回復看護学実習 II-1	2	3
健康回復看護学実習 II-2 (こども)	2	3
健康回復看護学実習 II-3 (こころ)	1	3

看護学原論 I	1	1
看護学原論 II	1	2
看護学原論 III	1	4
看護教育学 I	2	3
エンドオブライフケア論	1	4
キャリア開発演習 VI (看護)	2	4
総合看護学実習	3	4

4. 専門教育科目群 選択必修

区分6

下記の科目から2単位

	単位	回生
哲学概論	2	1~
倫理学概論	2	1~
道徳教育の理論と方法	2	1~

区分6、9

下記の科目から2単位

	単位	回生
看護管理学 II A	2	4
看護管理学 II B	2	4
国際看護学 II	2	4
看護教育学 II	2	4

5. 自由科目

区分2

	単位	回生
災害看護学 II	1	2

区分6

	単位	回生
看護倫理 II	1	4

助産師関連科目群 (自由科目)

区分8 自由科目

	単位	回生
助産診断学	4	3
助産技術学	4	4

区分9 自由科目

	単位	回生
助産学実習	8	4

保健師関連科目群 (自由科目)

区分7 自由科目

	単位	回生
生涯健やか事業構想論	2	4

区分9 自由科目

	単位	回生
生涯健やか事業展開実習	3	4

※ 選択必修科目にて、看護管理学 II Bを必ず履修

【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

看護学部 看護学科

科目概要

看護学部 看護学科 ▶

カリキュラムマップ ▶

カリキュラム表 ▶

▼ 区分1 ▼ 区分2 ▼ 区分3 ▼ 区分4 ▼ 区分5 ▼ 区分6 ▼ 区分7 ▼ 区分8 ▼ 区分9

▼ 教養教育科目群

区分1

キャリア開発演習Ⅰ（看護）

キャリアデザインを描きながら各自の知的好奇心を活かしたグループワークを行い、基本的なスタディスキル、チューデントスキルを習得する。

キャリア開発演習Ⅱ（看護）

キャリア開発演習Ⅰの内容を継続し、自身の生活や健康に関連したテーマに基づくグループワークを通してスタディスキル、チューデントスキルを習得する。

キャリア開発演習Ⅲ（看護）

キャリア開発演習Ⅰ・Ⅱで養ってきたスタディスキル、チューデントスキルを活かし、看護学に関連した文献講読を通して各自の関心事をまとめ、プレゼンテーションや意見交換を行うための基本的スキルを習得する。

キャリア開発演習Ⅳ（看護）

キャリア開発演習Ⅲの内容を継続しながら、チューデントスキルやスタディスキルの定着をはかり、看護学分野以外の保健医療福祉専門職など他分野の視点も取り入れながら、論理的・客観的思考に基づいたプレゼンテーション、ディスカッションスキルを習得する。

英語ⅠA

基本的な英文の読解・表現の演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリーディングとライティングの技能を発展させていく。

英語ⅠB

平易な英語のリスニング・スピーキング・プレゼンテーションの演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリスニングとスピーキングの技能を発展させていく。

英語ⅡA

スキミング、スキヤニング、主題の把握、推論など、効果的に英文を読むために欠かせないリーディングスキルの修得をめざす。また、必要ならリーディングスキルを用いて、さまざまなトピックについての読み物を読み、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見を表現できるライティング能力を向上させることをめざす。

英語ⅡB

効果的に英語を聞きとるために欠かせないさまざまなリスニングスキルの修得をめざす。それらのリスニングスキルを用いて、さまざまなジャンルのリスニング教材を聴き、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見をプレゼンテーションできる能力を向上させることをめざす。

英語ⅢA

TOEICに出題される英文を題材にして、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの問題を中心とした演習を進めながら英語運用能力を身につける。特に、リーディング面の英語運用能力の向上をめざして、語彙力の強化にも重点を置いた授業を展開する。

英語 III B

TOEICに出題される英文を題材にして、通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの出題形式の演習問題を行いながら英語運用能力を身につける。特に、リスニング面に重点を置いて、さまざまなジャンルの英語の聞き取り能力の向上をめざす。

英語 IV A

日常的な話題について質問・応答ができる表現力、基本的な文法・語彙を使って文章が書ける作文力の修得のため、TOEICに出題される英文を題材にして、音読・通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。

英語 IV B

さまざまなトピックについて英語でプレゼンテーションができる表現力の修得のため、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。さらに、プレゼンテーションに対して、適切なコメントや質問をする能力も身につくようにしたい。

論理的思考

論理的に考えるための前提となる検証などの考え方を学び、思考を洗練し、創造的に思考するトレーニングを行い、批判的思考の基礎と理論を学び、論理的・批判的に考えるスキルを身につける。

教養入門

初めて大学での教養教育を学ぶ学生を対象として、教養とは何か、教養教育の意義、本学における教養教育の特徴などを講じ、受講生の動機付けとマッピングを行う。

教養教育科目

【教養教育科目】を参照のこと。

区分2

災害看護学 I

災害看護に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期のさまざまな看護の場における看護活動についてライフサイクルを踏まえて理解する。また、救命救急活動における基本的技術を学ぶ。

災害看護学 II

災害看護学 I を踏まえ、災害看護に関する実践方法論を学ぶ。トリアージ演習や避難所運営シミュレーションの演習形式、防災・減災訓練を通して、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における災害サイクル各期の看護の役割を学ぶ。

国際看護学 I

講義による基礎的な知識の獲得および映像などのメディアからの情報をもとにグループでのディスカッションを行い考えを深める。また、海外での看護活動経験者によるプレゼンテーションを通して国際看護活動の実際を学ぶ。

プライマリヘルスケア I

健康およびプライマリヘルスケアの概念と共に、世界・日本の動向や政策・体制を学ぶ。また、現代社会における健康課題を理解した上で、人々が自らの健康を保ち、よりよく生活するための介入方法を学ぶ。

プライマリヘルスケア II

公衆衛生や保健医療福祉政策の変遷と、人の発達段階各期に関連する政策や制度について学ぶ。

プライマリヘルスケア III

疫学・保健統計やコミュニティーアズパートナーモデルを用いながら、地域における健康課題を見出す方法を学ぶ。これらを踏まえて、地域の特性や社会資源に関する資料等を活用し、健康課題を解決する計画、立案を学ぶ。

地域課題研究

前期、教養入門の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

区分3

家族看護学

対人ネットワーク論

ライフサイクル論

家族看護に関する理論的知識体系を学び、ライフサイクルに沿って個人と家族の生活とその関連を把握し、家族の持つ健康課題に取り組む看護の役割を学ぶ。

人間関係の基礎理論にふれながら、「自己」「認知」「態度」「対人関係の進展とコミュニケーション」を中心に学習し、良好な人間関係の形成や健康的なネットワークを構築するための必要なありかたを理解し、看護の対象との良好な関係づくりの基盤を学ぶ。

人のライフサイクルと発達について学び、それぞれのライフサイクルにおける生活のあり方や発達課題の特徴を学び、看護の対象となる人々を理解するための基礎的な能力を養う。

生涯健やか看護学実習 II-1 (ダイケア)

一人の高齢者を受け持ち、対象理解を行うとともに関係性を構築する。また、臨床での看護過程を理解するための基礎的な能力を養う。

区分4

フィジカルアセスメント I

解剖学、微生物学の基礎医学を系統的に学び、身体の状態をアセスメントするための基礎的知識を学ぶ。

フィジカルアセスメント II

看護に必要な解剖学、生理学、薬理学、病理学、栄養学等を系統的に学び、身体の状態をアセスメントするための基礎的知識を学ぶ。

フィジカルアセスメント演習 I

フィジカルアセスメントの目的と方法を理解し、フィジカルアセスメント I で学んだ人体の構造と機能の知識をもとに、対象者の身体の情報収集し、健康状態をアセスメントするための知識・技術・態度を習得する。

フィジカルアセスメント演習 II

フィジカルアセスメント I・II の内容をもとに発展させる科目である。対象者の身体の情報収集し、健康状態をアセスメントするための知識・技術・態度について系統的に学び、それらを統合して実践する力を養う。

ライフサイクル疾病論

生活習慣病をはじめとするライフサイクルで発症する可能性の高い疾患を中心として病態・診断・治療を学ぶ。

区分5

看護創造論 I

看護分野外の専門家（例えば、ドラッカーやコヴィー、マドラー）の考えを参考に、看護の理論家とは別の角度から看護を学ぶ。また、ディスカッションを通して自身の看護に対する考えを整理し伝えていく過程を学ぶ。

看護創造論 II

IT や AI の技術革命と共存しながら看護のイノベーションとは何か、実習で経験した事柄も活かして看護の存在価値（レゾンデートル）と可能性について、グループワークを取り入れながら学び、追求する。

キャリア開発演習 V (看護)

エビデンスに基づいた看護実践や新たな看護を創造するために必要となる看護研究について、研究の意義を理解するとともに、研究を実施するための基礎的知識を学ぶ。

情報科学 I

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

情報科学 II

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められており、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、効果的に情報を活用する方法を学習する。また、これらを踏まえ

統計学基礎論

統計学の概念と方法を理解し、看護、地域保健に役立てる基礎的な知識を習得する。

て、地域保健・看護活動に役立つ保健統計調査の知識と方法を学習する。

区分6

看護管理学Ⅰ

次世代を担う看護管理者になるための基礎的な管理(人的・物的・社会的・情動的・経済的)の視点から実践的看護を学ぶ。医療施設におけるケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントの実際、患者中心志向の医療サービス提供体制や運営にかかわる看護職・看護管理者のあり方を、資料・映像学習、課題学習によって学習する。

看護管理学ⅡA

医療の場における看護マネジメントの実際や実習体験を通して、各人の疑問を明らかにする。医療チームの一員として、看護サービスのあり方や医療経営への参画者として、また組織・チームの一員としての看護職者の役割について学ぶ。

看護管理学ⅡB

社会の変革と母子保健の動向を踏まえ、施設および地域社会において提供される助産の質と安全性を保证するための管理方法と改善の取り組みについて学ぶ。

看護倫理Ⅰ

これまでの実習を振り返り、倫理的課題をはらんでいる事例を分析し、倫理原則に則って解決に向けた対策を学ぶ。

看護倫理Ⅱ

多様な看護の場についての事例における倫理的課題について考察し、患者の権利擁護のための看護実践を学ぶ。

国際看護学Ⅱ

集中講義・事前学習をおこなった上で、海外研修を実施する。海外での保健医療機関や看護教育機関の訪問、ホームステイの体験などから、異和共生社会における看護の役割について考察する。

哲学概論

市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成、異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成を目的とする。哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私たちにとってどんな意味をもつのかについて、さまざまな哲学者の著作を通して考える。

倫理学概論

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解し、倫理的な考え方を身につけることを目標とする。社会正義を考えるをテーマとして学びを進め、近代以降の倫理学の学説を中心に、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考えるうえで倫理的な思考法の意義と重要性を知る。

道徳教育の理論と方法

学校教育を通して、自然と社会性と道徳性をどう身につけていくのかという課題に対して、歴史的及び理論的な視点から考察する。さらにそうした考察・探求を、具体的な道徳教育(授業)の実践例の分析を通じて深めていく。終末は道徳授業の構想づくりから授業プランづくりまでできる力量を習得できるような実践的な授業になる。

区分7

プライマリヘルスケア演習

地域診断をふまえて、集団に対する健康の保持増進のための支援方法を習得する。

生涯健やか看護学

周産期にある母児とその家族の健康の保持増進および妊娠・分娩・産褥経過に沿った看護、地域でライフサイクルの課題や健康課題を抱え、生活している人に対する看護の実際を学ぶ。

生涯健やか看護学演習

地域でライフサイクルの課題や健康課題を抱え生活している人に対する看護過程を学ぶ。周産期にある母児とその家族の健康の保持増進や訪問看護に必要な様々な対象や環境に合わせたアセスメントの視点と看護技術を習得する。

生涯健やか看護学実習Ⅰ

地域で暮らすさまざまな発達段階の人と関わり、人の成長発達・健康・生活・環境の視点か

生涯健やか看護学実習Ⅱ-2(老健)

高齢者施設をフィールドとして、看護過程を展開しながら対象に合わせた日常生活援助技術を

生涯健やか看護学実習Ⅱ-3(包括)

地域包括支援センターにおいて、地域で暮らす人々の健康の保持および生活の安定を目指して

ら対象を理解し、その健康を支える上で必要な健康課題をアセスメントするための基礎的能力を養う。

適用する基礎的能力を養う。

行われる保健・医療・福祉を包括的に捉えた支援の実際に触れ、地域での健康な暮らしを支える看護を実践するための基礎的能力を養う。

生涯健やか看護学実習 III -1 (訪看)

生涯健やか看護学、生涯健やか看護学演習等を踏まえ、訪問看護ステーションでの訪問看護活動を通して、慢性疾患を抱え訪問看護を利用している人の看護過程を展開し、一人ひとりにあった生活の場における看護の実践ができる能力を養う。また、多職種連携システムについて学び、看護の役割と専門性について考える。

生涯健やか看護学実習 III -2 (訪看)

生涯健やか看護学、生涯健やか看護学演習等を踏まえ、訪問看護ステーションでの訪問看護活動を通して、精神疾患を抱え訪問看護を利用している人の看護過程を展開し、一人ひとりにあった生活の場における看護の実践ができる能力を養う。また、多職種連携システムについて学び、看護の役割と専門性について考える。

生涯健やか看護学実習 III -3 (母性)

生涯発達の視点から周産期にある母児とその家族の健康の保持増進・疾病予防のために必要な看護援助について学び、対象の個別的ニーズに応じた看護を実践する基礎的な能力を養う。

生涯健やか事業構想論

地域における個人・家族・集団を対象とした公衆衛生看護活動の理論と実践について、実習する地域の地区診断、事業計画・立案を机上で展開しながら学ぶ。

区分8

健康回復看護学 I

人間の発達段階や基本的ニーズと関連させながら、さまざまな看護の対象者への日常生活援助について、安全・安楽・効率的に実施するための知識を身につける。また、健康レベルに応じた看護過程の展開方法について学ぶ。

健康回復看護学 II

健康回復看護学 I を踏まえ、健康が破綻している患者と家族に対して、診療に伴う看護援助を実践するための基礎的知識を学ぶ。また、がんの治療を行う患者の事例を通して、看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ。

健康回復看護学 III

医療施設で健康回復を目指して治療を行う対象とその家族の身体・心理・社会的特徴とニーズについて学ぶ。医療施設で健康回復を目指して治療を行う対象とその家族に必要な看護の方法論を学ぶ。

ヘルスクライシス疾病論

人生の危機となる疾患を中心として病態・診断・治療を学ぶ。

健康回復看護学演習 I

健康回復看護学 I と対応しながら、さまざまな看護の対象者への日常生活援助を、安全・安楽・効率的に実施するための技術を習得する。

健康回復看護学演習 II

健康回復看護学 II と対応しながら、健康が破綻している患者と家族に対して、診療に伴う看護援助技術とその適用方法についてシミュレーション演習等を通して習得する。

健康回復看護学演習 III

健康回復看護学 III と対応しながら、精神看護、小児看護、成人看護領域において医療施設で実践される看護の思考過程および看護技術をシミュレーション等を通して習得する。

健康回復看護学実習 I (病院)

既習の知識（主には健康回復看護学 I ・健康回復看護学演習 I、健康回復看護学 II ・健康回復看護学演習 II）を踏まえて、医療機関に入院している対象者に対して看護を実践するための基礎的能力を養う。

健康回復看護学実習 II -1

健康回復看護学 III、健康回復看護学演習 III、ヘルスクライシス疾病論等の学びをもとに、急性期病院において健康回復過程にある対象とその家族への看護実践を学ぶ。

健康回復看護学実習 II -2 (こども)

医療施設で患児を受け持ち、看護過程を展開し健康回復過程になる対象者に対する看護を実践できる能力を養う。

健康回復看護学実習 II -3 (こころ)

精神科治療病棟において、治療的環境・治療的関係について理解するとともに、地域生活移行を支援し再発予防のための看護を実践できる能力を養う。

助産診断学

リプロダクティブヘルス/リプロダクティブライツの概念を理解し、女性の健康について学ぶ。また、周産期における母児とその家族の健康の保持増進と異常の予防・早期発見を目指し

て、ウェルネスの視点から助産診断の基礎を学ぶ。

助産技術学

周産期にある母児とその家族の健康の保持増進および異常の予防・早期発見のために、妊娠・分娩・産褥経過に沿った継続的な看護を展開するための知識と技術を習得する。

区分9

看護学原論 I

実践科学としての看護学の成り立ち、看護の基礎概念、人々の健康を支援する看護の役割や機能、代表的な看護理論など、「よりそう看護」を創造・実践する上で必要な看護の基本的知識を学ぶ。

看護学原論 II

看護学原論 I で学んだ知識や、いくつかの代表的な看護理論をもとに、実習での経験を振り返り、看護を考察する。看護場面の振り返りを通し、「よりそう看護」の本質について学ぶ。

看護学原論 III

自らの看護実践事例を振り返り、ケアの倫理の視点で意味づけを行うことで「よりそう看護」の本質について考える。また、現代までの看護の歴史を振り返り、実践科学としての看護のあり方、さらに看護職の資格に基づいて社会に貢献できるようなキャリア構想を描く。

看護教育学 I

看護教育の歴史、看護の教育的機能、授業の構造化や教授学習過程について学ぶ。また、模擬講義を実践し、集団を対象とした教育方法や集団力学を学ぶ。

看護教育学 II

看護教育学 I を踏まえ、看護の専門職としての展望、看護継続教育等のキャリア開発について学ぶ。

エンドオブライフケア論

エンドオブライフにある人々やその家族を取り巻く状況、抱える苦悩を理解し、「その人がその人らしい生を全うする」ための看護職の役割・責任について学ぶ。また、エンドオブライフケアの学びを通して、自己の死生観について考え、死にゆく人々・家族と向き合うための姿勢を養う。授業は講義とグループワークで進めていく。

キャリア開発演習 VI (看護)

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持った内容や研究疑問からテーマを決定し、看護研究を実施する。研究プロセスを通して看護の本質を追究し、「よりそう看護」を創造、発信する力を育成する。

総合看護学実習

既習の実習で明らかになった自己の課題に対し、自ら実習計画を立案して実習に取り組む。さらに、保健医療福祉のチームの一員として協働・連携し、専門的な知識や技術を深める。

助産学実習

医療機関の産科病棟および産科外来において、周産期看護を理論と根拠に基づいて、計画的に妊娠期・分娩期・産褥期の看護過程の展開を行い、周産期看護を実践できる能力を養う。

生涯健やか事業展開実習

公衆衛生看護活動の実際を学び、公衆衛生看護の対象を多角的に理解し、地域に顕在・潜在する健康課題を導き出す。そして、社会資源を活用して、対象の特性に対応した保健事業の計画・実施・評価までを展開する能力を養う。さらに、地域における保健福祉行政政策のあり方について考察し、「よりそう看護」の実践を展開する能力を養う。

教養教育科目群

▼【人間と知の伝達】現代の思想 ▼【人間と知の伝達】メディアと情報 ▼【人間と文化】外国語と文化理解

▼【人間と文化】歴史・文化 ▼【人間と社会】法律・行政・政治 ▼【人間と社会】経済・経営・社会

▼【人間と自然】健康・こころ・からだ ▼【人間と自然】自然と環境

【人間と知の伝達】現代の思想

日本人と宗教

日本社会が伝統として培ってきた宗教の文化的土壌を理解し、そこから宗教的な見方、考え方を通して人間関係のあり方やその形成について豊かな意味を獲得していくことを理解し、実践していく態度を身につける。具体的には、日本社会に広く展開した宗教（神道、仏教、キリスト教、儒教、民俗行事など）について、その実践や文化的視点から、資料等を用いながら学ぶ。

ジェンダー研究

ジェンダーは人種・民族・階級とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点を用いて今日的な課題を考える。この講義により、ジェンダーに関する基本的な概念を理解するとともに、ジェンダーの視点を用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目標とする。

宗教学概論

宗教を正しく理解するための必要な基礎知識を習得しながら、人間社会にとって宗教が果たす重要な役割とその意義について考える。具体的には、客観的で科学的な立場にたつて、宗教の歴史を概観し、有神論と無神論、創唱宗教と自然宗教といった分類のしかたなどを考察する。

心理学概論

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、社会においても「こころ」を抜きにして考えることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心をもつ人は多いが、誤解されることがや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの講義では、自然科学の一種としての心理学の全体像を正確に学ぶことを目的とする。生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基本的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

【人間と知の伝達】メディアと情報

言語コミュニケーション論

日本語と英語によるコミュニケーションの比較を通して、その違いや特徴を学ぶ。コミュニケーションとは何かという問題から始めて、人間の言語の性質や機能、異言語間で意味がどのように伝達されるのかという問題を扱う。さらに、言語コミュニケーションの比較を翻訳や通訳という観点からも検討する。なお、言語によるコミュニケーションとの関わりにおいて、若干、言語以外によるコミュニケーションにも触れ、日英語それぞれの言語コミュニケーションの特質とどう関わるかも検討する。

現代のメディアと表現

今日、日本のメディア・コンテンツが世界的な文化として高く評価されつつあることは言うまでもない。その理由はいくつかあるが、もっとも重要なのは、単なるサブ・カルチャーの域を出て、現代文明に対する警鐘を鳴らすような、知的水準の高い創作活動を実現しえていることがあげられる。その意味では、かつての純文学とよく似た役割を、日本の映像メディアは今や担っている。このような観点に立って、日本の映像文化、特にアニメーションを分析、評価する。

情報社会論

授業では、情報の特性、現代社会における情報の機能等について概説的な説明を行う。とくに学生諸君にも密接な関連を持つ、個人情報の保護に関わる問題、インターネットの発達とネットリテラシー、マスメディアの発信する情報の受け取り方に関するメディアリテラシーなどについて解説する。

るのがこの講義の目標である。特に宮崎駿の創作活動に焦点を絞って、講義を進めていく。

情報処理演習 III

企業の実務において、PCを使用したデータの集計処理能力、業務データのグラフ分析やデータベース分析能力、またネットワークの利活用による情報収集や情報発信の実務能力を養成するため、表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の習得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身に付ける。

情報処理演習 IV

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に、使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められる。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

情報処理演習 V

企業の実務において、PCを使用したビジネス文書作成能力やネットワークの利活用による事務能力や情報収集、発信能力が大変重要な能力として求められており、この授業では、現在、ワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の習得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身に付ける。

情報処理演習 VI

ホームページは情報を発信するための1つの手段となっているが、インターネットのホームページは、HTMLという言葉により作成されている。講義ではHTMLによりホームページを記述する基礎技術とWebメディアのマルチメディア表現の技術を修得する。HTMLによる「表現の可能性」と「楽しさ、面白さ」を追求しながら授業を進めていく。

数学演習 I

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ。数と計算・図形の初歩から学び、さまざまな応用問題が解けるようにする。ピタゴラスの定理と無理数、1次・連立・2次方程式、因数分解、1次・2次関数とグラフなどを主なテーマとする。

数学演習 II

数学的思考、数理的思考を身につける。比・比例・割合、論理と集合、場合の数と確率、平面・空間図形の計量などをテーマとして、日常生活との接点を探りつつ、基本的な概念、典型的な問題の解法、実生活への応用を教授する。

【人間と文化】外国語と文化理解

文化人類学

我々人類は、多様な生活習慣をもち、さまざまな文化を形成している。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに表れる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。本講義では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について解説し、さらに具体的な研究事例も取り上げる。

比較文化論

世界は「謎」に満ちている。私たちの想像や理解を超えたことが頻発している。そうした「謎」を、自分には関係ないと簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解する最良の機会と考えられるようになれば――これがこの授業の最大の目標である。世界で起きているさまざまな問題の背景にある文化、価値観、思考様式を知り、そうした問題と自分がどう関わるのかを考えることを通して、さまざまな文化について理解するとは、すなわち自分が変わることであることを体得してほしいと思う。

芸術と文化

芸術（アーツ）と文化の関わりなどについて、芸術の歴史や哲学、美術、音楽など総合芸術をテーマとして学ぶ。また、美術や音楽、映像などの芸術を鑑賞し、現在さまざまに試みられている芸術表現などを取り上げ、芸術による文化発展の可能性や問題について考察する。

中国語 I

中国語の発音と文法の基礎を身につけるため、数字、人称代名詞、名詞、動詞の文、疑問文、疑問詞、形容詞の文、助数詞、時間、年月日、時刻、前置詞の表現などの各種の練習をする。

中国語 II

中国語のさまざまな基本短文を作ることができるよう、変化、完了、進行、持続、経験を表す表現、助動詞、補語、比較形、受身と使役などの表現方法を学ぶ。

中国語 III

中国語の長い文章に慣れることを目的として、文章を読み進める練習と、一字一句の意味をきちんと確認する方法を併用しながら、易しい文章を大量に読むことによって、まず中国語に慣れることをめざす。文章の内容は、日本や中国の観光地、歴史的事件、食べ物、祝日などを題材にする。

中国語 IV

韓国語 I

韓国語 II

基礎的な文法を踏まえて、聞き取りの練習、自由表現の練習、対話の練習などを繰り返しながら、中国語でのコミュニケーションができることをめざす。毎回の授業で、中国の文化、習慣、生活、最新ニュースを紹介する。

初めて韓国語を学ぶ人のために、文字の仕組みから親しんで、発音法則を理解するほか、挨拶や正確な文章の読みなどを徹底的に学習する。なお、韓国文化を理解してもらうために、韓国人の生き方・歴史・社会・文化、特に食文化などにも触れる。

韓国の文字と発音をマスターした人が、次に進む段階として、ここでは文法+会話+講読に重点を置き、基礎文法と基礎会話力を固めると同時に、簡単な読み書きができるように学習する。また、韓国の文化に関わるものを講読のテキストとし、韓国の文化に親しむ。

韓国語 III

会話+講読+聴解力+作文に重点を置く。韓国語 I・II で学んだ力を生かして、表現力を増やし、より自然な会話の習得をめざす。聴解力のアップとあわせて、場面ごとに正確な会話ができるように進め、また日常よく使う表現を作文できるように学習する。

韓国語 IV

韓国語だけで授業を行い、自由会話を中心に聴解力をつけ、韓国の中学生以上の会話運用能力をつけるために学習する。この授業では、自由会話+スピーチができることを目的とし、学生たちによるスピーチと韓国映画鑑賞によってその力を身につける。

フランス語 I

フランス語の発音と、文法の重要な規則のうち、もっとも基礎的な部分を学び、それを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を修得する。

フランス語 II

フランス語の発音、文法などの基礎知識を踏まえて、やや高度な文法事項を学び、それらを用いた文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。

ドイツ語 I

ドイツ語のもっとも基本的な規則（発音の仕方と文法）を一つずつ学ぶ。できるだけ多く反復練習（リーダーの講読、教科書の練習問題、その規則を含む短い作文など）をとり入れ、一つひとつの規則を確実に身につける。

ドイツ語 II

ドイツ語 I で学んだ規則をもとに、新たな規則修得の段階に進む。ドイツ語 I と同様に、リーダーの講読、練習問題、作文をできるだけ多くとり入れ、規則の一つひとつ確実に身につけることを主眼とする。

外国語臨地演習

外国語を、実際に使われている土地で学び、運用能力を高めるための科目である。中国、韓国などの協定大学で寮生活を送りながら、およそ1ヵ月のプログラムを学修する。授業は午前中で、午後にときどき見学などが配置されている。プログラム終了直前には、文化遺産見学ツアーも予定される。

【人間と文化】歴史・文化

歴史学入門

歴史学の考え方を理解する。前半は、日本史分野の教員が、後半は世界史分野の教員が担当し、史料の持つ意味やその扱い方などの研究スキルと、多様な研究ジャンルの視点とメソッドを紹介する。

京都講座 I

テーマは「埋もれた京都の地下遺産を探る」である。考古学的手法を用いて、本学の足下にある京都の歴史遺産に焦点をあて、触れ、理解して、京都での学びをより深める視点を養う。条坊制に基づく平安京、平安宮の遺跡と遺物、東寺・西寺跡、羅城門と朱雀大路、平安京左京の変遷、近世以降の平安京の様子を説明し、市街地での観察方法を伝授する。

京都講座 II

千年の古都である京都は、日本文化の源と言ってもよい。しかし、学生がその魅力の源泉にふれる機会は少なく、観光企画や宣伝によって脚光を浴びた表面的な知識しか得られないのが一般である。そこで、この科目では、京都をより深く知り、文化の伝統と現代のあり方について考える機会をもつために、京都を舞台にした文学やそれを成立させた歴史的背景を学ぶ。種々の文学作品を通して、例えば葵祭の特質や往古の人々の祭りに対する心情を想像し、六道の辻がなぜ魔界とされているのかを知ることができると。そこから、観光のあり方や伝統の継承といった、現代的な問題意識も育みたい。

京都の歴史・文化 I

京の都は、中国・唐の都城にならって建設されたが、都への軍団の駐屯は視野に入れずに計画

京都の歴史・文化 II

この授業は、京都橘大学と総本山醍醐寺の学術交流協定に基づく授業である。京都の文化財に

文学と京都

京都を舞台とした近代文学の小説作品を読む。小説の読解力・鑑賞力を養うとともに、京都の

された都市であった。文字通り、「平安京」の名が相応しい都ー京都で繰り広げられた歴史と、その歴史の展開のなかで残された歴史遺産はどのようなものであったのか、古代から幕末までの都の様相の変遷とその要因を、主として政治史・経済史・都市史・民衆史・女性史の観点から捉え直してみる。

【人間と社会】法律・行政・政治

日本国憲法

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をするために必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につける。また、これを理解するために必要な基本的知識を身につけることを目標とする。授業では、日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

民法

民法は、私法分野の基本法であり、市民の社会生活そのものを広範に対象とする学問である。本講義では、民法の基本構造を明らかにし、主要な法原則、法制度、法概念を理解するとともに、その基礎的知識を獲得することを目的としている。また、具体的な事例や裁判例を用いながら、民法が日常生活にどのように関連しているのかを明らかにすることで、法的な問題発見能力、問題処理能力を養い、法の生きた理解を可能にする。特に、財産法の分野の解説に重点を置くが、家族法の分野についても一通り概観しておく。

政治学概論 I

政治学への入口として、政治についての意識形成、政治についての基礎知識、政治学を学問としてとらえる力を身につけることを目的とする。授業では、権力、デモクラシー、政治システムと政治過程、地方自治、国際政治、宗教と政治、官僚制などを概観し、基礎的知識を獲得する。そのため、テキストを活用しつつ現代日本の政治現象を身近に感じられるように、時事問題を政治学的に考察するヒントを提示するとともに、テレビを中心とするマスコミ以外によ

ついで、現代にまで伝わる文化財、信仰行事等を通じて学ぶ。また、醍醐寺に残る文化財、信仰行事に接する機会を設け、日本文化について考察を進める。

法学概論 I

法学概論 I では、国家の統治組織や作用、行政権の主体と個人との関係等について学ぶ。主に憲法を中心として進めていき、国民の権利・自由に関する基本的人権論や、権力分立・国家行政組織・地方自治といった統治機構の諸制度を範囲とするが、重要事項の理解を深めるために、関連のある諸法にも触れていく。本講義では、各講において具体的な事例を用いた設問を挙げ、そこで論点となるテーマに関する判例・学説を理解する。また、各制度のあり方について考察し、憲法の基本理念や一般理論を修得する。

行政法

憲法をベースとしつつ、行政と国民の法的関係を理解して国法における行政権のあり方を検討する。法文の基本を勉強したあと、国家と国民との関係についての基本的論理構成に続き、行政行為をはじめとする行政活動の諸形式ごとに、両者の法関係の内容的検討を行い、市民生活の法とは異なる行政法の特殊性を学ぶ。そのため、身近な事例を例示しつつ、民法や刑法などとの関係を理解するために、もし、裁判員になったとしたらどうしたらいいかを映像を交えて学修したり、国の機関のうち、興味のある省庁を自分で調べたりすることとする。

政治学概論 II

具体的な政治家・政治現象の事例（例えば、「大平正芳」など）から、戦後の日本政治を政治過程論として概観し、さまざまな政治家が活躍する舞台を具象的に再現できるようにする。さらに、日本における政府の仕組み、とりわけ政党と官僚との関係を知り、政治家・政治過程の実際について自分で考え、論評できるようになることを目標とする。具体的には、新自由主義と社会民主主義、内政と外交、族議員と派閥、政権交代と派閥抗争、消費税と赤字国債などについて考察するとともに、映画で政治家は

歴史・風土にも触れて行きたい。京都の大学で学ぶ学生として興味・知的関心を深めることを目標とする。

法学概論 II

法学概論 II では、私法全体の理解を目的としており、主に民法と商法を中心に進めていく。本講義では、契約、住まい、家族生活、事故の遭遇などのさまざまな場面において、私法との有機的な関連を可能な限り明らかにし、各制度の正確な位置づけを図る。各テーマの理解を深めるために、借地借家法、製造物責任法、民事訴訟法といった特別法も、適宜に範囲に含める。また、具体的な事例を提示して、その解決を念頭に置きながら重要な事項について説明することで、初歩的な応用力を身につける。

人権と教育

今日、子どもや女性、障害者問題、部落問題、など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

国際関係入門

グローバル化の進展した今日では、ヒト・モノ・カネの移動を身近に感じ、国内のあらゆる事象が国際社会と密接につながっている。本科目を通じて、国際関係を理解するうえで基礎となるものの見方・考え方や、複雑化・多様化する現代の国際関係を的確に捉え、問題解決に向けて自ら思考し解決策を見出す力を養うことを目標とする。

って、政治に関する情報・言説を知るソーシャルメディア利用法などにも言及する。

いかに描かれてきたかなどメディアと政治の関係にも言及する。

行政学

行政システムについて、府省庁組織や中央地方関係、政府と市場、組織と管理などのテーマから行政システムの活動とその結果の全体をとらえる。省庁再編・政策評価の導入や地方分権改革などにも触れる。

【人間と社会】 経済・経営・社会

くらしと経済

わたしたちのくらしの物質的な基盤となるのが経済である。この経済のくらしへの影響は時とともにますます大きくなっている。したがって、経済を理解することは現代社会に暮らすすべての人間にとって必要なことである。この科目では、市場と価格メカニズム、政府の役割、経済成長、経済発展、金融システム、雇用システム、国際収支、為替相場などの、経済を理解するための基本概念を、身近な事例を用いて説明することによって、わたしたちの日常のくらしをとりまく経済現象について学ばせる。

経済学概論 I

現代日本経済における諸問題を学ぶことによって、経済学への導入を図る。具体的には、まずバブル経済とその崩壊による平成不況の深刻化の課程を「不良債権処理の10年」として概観する。次に、ケーススタディとして、日本長期信用銀行の破綻、山一証券の自主廃業について検討する。そして、女性労働として雇用機会均等法と育児支援を取り上げるとともに、労働問題として過労死・過労自殺、ホームレス、派遣労働、ネットカフェ難民、派遣村などを取り上げる。これらの諸問題を、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。

経済学概論 II

戦後日本経済の歩みについて講義する。敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでを、映像資料を活用してイメージ豊かに学ぶ。具体的には、特需景気、もはや戦後ではない、金の卵、エネルギー革命、所得倍増計画、公害、列島改造、ドルショックと石油ショック、日米経済摩擦、分割民営、バブル経済、プラザ合意、外国人労働者などを取り上げる。

経営学概論

「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解できるようになること、言い換えると、会社（企業）・事業・経営の相互作用を立体的・構造的に把握するため、それらをめぐる社会システムを理解できるようになること、これが授業での目標である。具体的には、まず会社（企業）形態、事業の定義、経営形態等について講義する。次に会社の「戦略と組織」について、最後には、サプライ・チェーン・マネジメントやアウト・ソーシング等、最新の経営手法の具体的な事例分析に関する講義を行う。

会計学概論

目標：企業会計の基本的なシステムを学ぶとともに、あらゆる組織への会計の適用可能性を理解する。内容：企業経営のプロセスを、資金の流れとして学ぶ。さらに、付加価値の形成、市場における価値の創造、収益の分配、および、稼得利益の意義を体系的に考察することによって、企業経営の本質を理解する。また、この学習を、複式簿記のシステム（簿記一巡の手続き）の理解と連動して行う。したがって、他人資本（負債）、自己資本（純資産）、資産、費用、収益という5つのグループの経営プロセス上での役割についても、それぞれのグループ内の勘定科目のレベルにまで、一定程度深化させて理解する。簿記システムの基礎的理解をめざし、簿記一巡の手続きについて学ぶ。

福祉とボランティア

「福祉」「ボランティア」について基本的な考え方と知識を学び、教職の基本である<人間の尊厳>への気づきと理解を深める。福祉制度への理解を深める中で、ひとりひとりがどのように共生社会づくりに関われるかを考える。教職免許取得に必要な「介護等体験」の事前必修科目としても位置づけられている。

社会学概論 I

社会学概論 I では、自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会的に理解する方法の修得をめざす。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちである点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる。

社会学概論 II

社会学概論 II では、社会学概論 I での基本概念の理解を踏まえ、近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会的想像力の定着をめざす。

時事問題研究

受講生が問題意識をもち、リサーチし、発表し、討議するという方式で行う。担当教員による講義、説明もあるが、基本は受講生の問題意識に基づく集团的討議により授業が進められる。時事問題への深い理解が得られることが授業の主たる目標だが、同時にリサーチの方法、プレゼンテーションの方法を身につけることもまた大切な目標とする。

【人間と自然】健康・こころ・からだ

健康に生きる I

健康とは何かを学び、大学生活およびその後の生活を健康で過ごすための方法を学ぶ。

健康に生きる II

健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。健康と栄養の関連を理解する

健康に生きる III

個人の「健康」について精神的な側面（メンタルヘルス）を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されているさまざまなメンタル

とともに、食の安全性を理解し、健康増進に役立て、健康的な食生活を志向する。

ヘルスの理論や、その歴史的な発展について講義し、現代人が健康に生活する上でのメンタルヘルスの重要性の理解を促す。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされるさまざまな理論・技法についても概観する。また、メンタルヘルスが個人の全般的な健康に資する役割についても言及する。

体育理論

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考えるため、体育科教育の概要を理解するとともに、体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身につけることを目標とする。

スポーツコース I

ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図り、またスポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

スポーツコース II

Iに引き続き、ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として、さらに基礎体力と技術のスキルアップを図る。またあわせて、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

スポーツコース III

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バレーボール、バスケットボール両種目の基本的な技術や知識を学習するとともに、全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。

スポーツコース IV

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バドミントンと卓球の基本的な技術練習とルールの理解から始め、シングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

【人間と自然】自然と環境

地球生命論

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。その中でも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解する。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造、土壌層位、遺構面と遺構埋土の特徴などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて概観する。

地球環境論

環境問題は、今や誰にとっても避けて通ることのできない重要な課題である。この授業は、環境問題を、自然科学的アプローチ、社会的アプローチ、哲学的アプローチを総合的に駆使しつつ考察する。環境問題の複雑さ、議論の道筋、論点などをわかりやすく講義する。

エコロジー研究

環境問題は、戦争と平和の問題とともに現代に生きるものにとって避けて通ることのできない問題である。この授業では、「エコロジー」をキーワードとして、環境問題を考える。とくに、学生一人一人の経験に即して、環境問題を考える視点を吟味し、政策的な課題と「草の根」でできる取り組みとを統合的に理解できる力を育てる。先人たちの環境を守る取り組みについて学ぶとともに、学生としてできることをも考える機会としたい。

自然の探求

地理学概論

生活の中の数学

この授業では、①身の回りの自然を丁寧に観察し、それらを具体的に認識すること、②自然界を構成する地圏・水圏・気圏・生物圏の基本的な仕組みを理解することを通じて、③「わたしたちにとって自然とは何か」「自然にはどのような価値があるのか」、各自が論考することを目指す。

地理学は大きく地誌学と系統地理学に分類されるが、ここでは系統地理学を扱う。系統地理学は、地球表面における自然現象を地域的な観点から究明する「自然地理学」と、地表上の人文現象（人口・集落・産業・交通・文化など）を地域特性の構成要素として考察する「人文地理学」に大別されており、その両方について概観する。

日常生活や仕事でさまざまな問題、さらに環境などの社会的課題を考える上で、数学は欠かせない。この授業では、将来、市民としての確かな判断を下すために役に立つ数学的考え方や概念を、現実の課題を考えるなかで学習する。扱うのは、経済や環境を考える上で重要な指数・対数、刻々と変化する様子から全体を知るための差分や微積分、社会の集団現象を分析するための統計や確率などである。授業では、これらの数学の必要性を理解・学修することを目標とする。

物理学基礎

物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考えるうえで基礎的な学問となる。本科目では、力学や電磁気学、光の干渉・回折などの基本的な原理について正しい理解を得るとともに、日常的に目にする現象を物理学的に理解し説明する力を身につける。また、物理学が身近なものに应用されていることを理解し、物理学の原理とその意義について見識を深める。例えば、身近な家庭用機器や医療機器（電子レンジ、健康維持器具、AED、MRI等）などに应用されている電磁気現象の原理などを理解する。

化学基礎

生活の中にある物質や現象を、化学的なもの見方や考え方で捉え、理解できるように基礎概念を解説する。原子の構造と結合、分子の形、物質の形態、溶液、化学反応などについて正しい理解を得るとともに、日常的に目にする物質や現象および、化学が身近に应用されていることを理解し説明する力を身につける。例えば、日常生活に関わる化学物質、例えば石油や原子力などのエネルギー源、金属やプラスチックなどの材料、薬品、医療品などについて触れ、応用されている原理とその意義を理解する。

生物学基礎

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命科学、および関連する諸問題について概説する。生命現象を理解するために、細胞の構造と役割、細胞を構成する物質、エネルギー、遺伝学、DNA、発生と老化、脳の構造などから、食と健康、がん、感染と免疫などについても解説し、正しい理解を促進する。さらに、生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、生物学的な諸問題を正しく理解するため、遺伝子組換え生物や再生医療、生態系と環境問題までの最新のトピックを交えて解説する。

学校保健

学校教育における学校保健の目的や学校保健の行政と制度、学校保健関係職員についての理解を深める。さらに、学校における保健管理と保健教育、保健組織活動の内容や児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題についても学ぶ。最後に、学校保健の今日的課題と展望について考察していく。

養護概説

学校教育及び学校保健活動における養護教諭の役割を理解し、養護教諭としての基礎的な知識と技術について学び、専門職としての能力を習得する。健康教育実践を通してより深く具体的に理解し、保健指導演習を行い養護教諭としての資質と力量を高める。

精神保健

学校における精神保健の課題は、生徒の心の発達メカニズムと様々な生活の問題が複合的に関与していることを取り上げ概説する。養護教諭として、精神保健ニーズへ対応することに必要な基本姿勢を学ぶ場とする。

教職入門

教育とは何か、学校とは何か、教科指導の在り方、教員の果たす役割とその意義はどこにあるかを、教員の体験や視聴覚資料から学ぶ。また、学級活動や総合的な学習の時間や特別の教科である道徳科など、最近の教育動向について学ぶ。最後に学校教育を支える教育行政の役割を中心に、教員の研修と服務について学ぶ。

教育原論

教育とは何か、何をもって教育（制度）と呼ぶのか等、まず教育に関する基本的な概念の検討を行う。続いて、西欧諸国における教育思想の発展および近代学校制度の成立と発展について、そして明治期以降のわが国における教育制度の発展について概説し、教育史に関する基本的な事項の理解をめざす。最後にまとめとして、現代日本の教育課題について総合的な観点から考察を行う。

教育心理学

子どもの指導、援助に関わる上で必要な発達や学習、パーソナリティなどの教育心理学の知識について学び、具体的な指導場面に即した教育心理学の知識や考え方、技術の習得を目指して授業を行う。対象である子どもの発達的特徴を絶えず念頭において、指導や援助の問題を考える。

教育制度論

現代の学校教育に関する制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。教育制度は、教育に

教育課程論

教育課程の意義、果たす役割、および、教育課程に関わる基本的な概念について理解し、教育課程編成、授業づくりに関わる基礎的知識を身

特別活動論

特別活動の意義や役割を理解し、その内容の具体的な活動事例を通して生徒の自主的、自律的な態度を育成する指導のあり方を学ぶ。講義の

関する法規に基づき成立し、その背景の思想が制度を歴史的・社会的に成立させる。日本における教育制度の変遷を学習するとともに、それらを構成する制度の仕組みの展開や問題を検討する。また、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も学習する。

につけるとともに、授業づくりやカリキュラム・マネジメントのために必要な力量の基礎を養う。

ほかレポート作成、小集団討議を取り入れ、将来学校現場において役立つような具体的・実践的な内容とする。

教育方法論

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質と能力を育成するための教育方法と基礎的授業技術を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につける。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、同時に学習指導要領に即した情報機器の活用を含む授業改善のための処方的知見を得られるようになる。

生徒指導論

生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と年間計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題に気づき学校現場での具体的な生徒指導事例を分析していく。

教育相談

教育相談は、「児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るもの」とされている。この授業では、教育相談に必要な知識について学ぶとともに、教師に求められるカウンセリングマインドの実践力を身につけていただくことを目標とし、中等教育の現場で出会う生徒の問題についてよく知り、生徒とその保護者への支援のありかたについて考えを深め、実践力を身につけていく。

教職実践演習（養護）

4年間の学びについて、1.児童生徒の理解（①児童生徒の発達と健康、②児童生徒を取り巻く社会と環境）、2.健康問題支援、3.コミュニケーション（①学校における養護教諭の役割、②地域・保護者との関係）、4.教育的愛情の視点に基づいて振り返って到達状況を確認し、そのうえで必要な知識と技能について補完する。そして、今後どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

養護実習

学校保健活動における養護教諭の職務の実態、養護実習体験報告などから、養護実習についてのイメージを膨らませる。教育課程の総決算として、教育現場で実習を行い、養護教諭としての専門的知識の習得と技術を磨き、教職に関する実践的研究の能力と態度を養う。

特別支援教育論

特別支援教育の制度と対象を理解する。また、教育の場や形態の違い（通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校）によって教育課程や教育方法が異なることを知り、適切な支援を継続的に提供するために、一人ひとりのニーズに即した個別の指導計画や個別の教育支援計画が果たす役割を理解する。さらに、異なる学校間や関係機関との連携を実現するための仕組みについて考える。

総合的な学習の時間の指導法

中学校高等学校における総合的な学習の時間の実施にあたって、その全体的な計画の立案、年間指導計画の立案、単元計画の立案、その実施、実施後の評価等のあり方について学ぶ。それらに基づいて、実際に総合的な学習の時間の授業を計画立案の具体例についても学ぶことを通じて総合的な学習の指導法について力量を獲得していく。

学校等体験活動

学校における教育活動や学校行事、部活動、学校事務などの学校における活動全般について、支援や補助業務を行うことにより、学校における教育活動や子どもへの理解と関心を高め、さらなる教職への意欲を高めるとともに、今後の大学での学修を充実させる。